大地の恵み紙芝居に

地産地消ネット伊賀が2作品

名張

名張市神屋の小規模特認校、国津小（雪岡正明校長、41人）で13日、「くにつ地産地消ふれあい交流会」があり、地産地消を進める伊賀地域の約20団体でつくる「地産地消ネットワーク伊賀」（廣島昭郎代表）制作の手作り紙芝居2作品が初めて披露された。【宮地佳那子】

国津小で初の披露

原作は同ネットワークに所属する「名張市消費生活協議会」と同市内で青空市を開いている「ながき村おこしグループ」。昨年4月ごろから半年以上かけて準備した。同協議会はモグラの兄妹の視点から、四季折々の農作業を描いた「モグッチ・モグミのいただきます」を、ながき村は野菜嫌いの男の子が祖母の無農薬野菜を少しずつ好きになっていく「おばあちゃんの野菜」を描いた。伊賀市出身の大阪芸術大生や名張市内の女性がイラストを描いた。

地産地消をテーマに初披露された紙芝居＝名張市で

この日は、5、6年生がながき村の会員と赤飯を作ったり、野菜の名前当てクイズなどもした。廣島代表（69）は「生産者の努力や、自然のありがたさを子どもたちに伝えたい」と話した。

ネットワーク伊賀は要望があれば、伊賀地域の小学校などで紙芝居を披露する。問い合わせは事務局の県伊賀農林商工環境事務所（0595・24・8141）。